

平成28年度 早わかり

船橋の台所事情

～これであなたも予算ツウ～



ふなばし産品ブランドPRキャラクター
目利き番頭 船えもん

船橋が将来にわたって 活力あるまちであり続けるために

平成28年度の本市の一般会計予算は、前年度と比較して5.5%増加し、2,100億円を超える大きな額となりました。市の予算は皆さん一人ひとりの生活に直接かかわる様々な事業を運営するために使われています。

わが国全体の人口は平成20年をピークに人口減少が始まりましたが、本市の人口は、平成27年3月に62万人に達し、さらに1年経過した本年3月には62万3千人を超えました。

本年3月に作成した「人口ビジョン」では、平成37年（2025年）頃までは緩やかに増加を続け、その後は減少に転じる見通しであり、年少人口及び生産年齢人口の減少、75歳以上人口の増加により、社会全体も大きく変化していくと思われます。

今、本市は、将来に向けて大きく飛躍していくための非常に大切な時期を迎えています。活力あるまちであり続けるためには、来たるべき人口減少や高齢化に備えてしっかりと準備をし、財政が健全に運営されていくことはとても重要です。

市の予算、財政状況や将来の課題を知っていただくために、今年も「船橋の台所事情」を作成しました。一人でも多くの市民の皆さんに本市の台所事情に興味を持っていただければ幸いです。



平成28年
船橋市長 松戸 徹

も く じ

予算の基礎知識……………	2	船橋市の財政状況……………	13
一般会計歳入……………	4	健全な財政と行財政改革……………	21
一般会計歳出……………	6	船橋ふるさと応援寄附金 (ふるさと納税)……………	22
船橋市の家計簿……………	9		
平成28年度予算の主要事業……………	10		

予算の基礎知識

「予算」とはなんですか？

1年間のお金の使い道、それが予算です。

市では、お金の使い道を毎年4月から翌年の3月までの年度単位で考えます。

この1年間に市に入ってくる収入を見積もり、収入の範囲内で市が行っているいろいろな仕事（福祉、教育、ごみ処理、道路整備、消防など）にどのくらいのお金を使うかという支出の計画を立てます。これを「予算」といい、市の仕事は、この予算に従って行われます。

予算はどのように決めるの？

収入

市民の皆さんから納めていただく税金、公民館やスポーツ施設などの使用料、国や県からの補助金などがどのくらい入ってくるのかという見積もりをします。

支出

日頃、市民の皆さんから寄せられる意見や要望も取り入れながら、次年度の仕事の予定を立て、その仕事に必要な金額を見積もります。

見積もった収入ですべての事ができればいいのですが、とても収入の範囲には収まりません。

そこで、市民生活を守るために緊急性や必要性が高いかどうか検討し、優先度が高いと判断したものについて、後期基本計画（※10ページ参照）との整合を図りながら次年度に行う仕事を決め、予算案を作成します。

予算の使い道を決めることはとても大切なので、市民の代表で構成される船橋市議会で審査してもらい、市議会の議決を受けてはじめて予算が決まります。

これを「当初予算」と言います。

市役所の作業

編成方針 8月

予算要求 10月

市長査定 1月下旬

予算案提出

市議会の審議

予算案審議 2月下旬

議決

当初予算成立 3月下旬

決まった予算は変えられないの？

4月から翌年の3月までの1年間の予算（当初予算）は、3月に市議会での議決を受けて決まります。

しかし、年度の途中で国が新たな制度を作ったり、台風などの災害が起こったり、社会情勢の変化や想定できなかったことが生じることもあります。

年度の途中でも、その変化や想定外のことに対応するために、追加の予算を作ります。これを「補正予算」と言います。補正予算も当初予算と同じく市議会の議決を受けてはじめて決まります。

予算の規模と会計の仕組み

一般会計

市の基本的な仕事（福祉、教育、ごみ処理、道路整備、消防など）を行うための会計です。

一般的に市の予算と言えば「一般会計」をさし、市税を主な財源としています。

平成28年度の予算規模は、2,122億5,000万円で前年比5.5%増です。8年連続の増額予算で過去最大の予算規模です。

特別会計

特定の収入（国民健康保険料、介護保険料、下水道使用料など）がある、特定の目的のための予算を経理する会計を「特別会計」と言います。

お金の出し入れをわかりやすくするために一般会計と財布を分けて管理します。

区 分		平成28年度予算額
特別会計	国民健康保険事業	689億7,300万円
	下水道事業	257億5,900万円
	小型自動車競走事業	1億7,200万円
	船橋駅南口市街地再開発事業	10億3,600万円
	介護保険事業	382億500万円
	母子父子寡婦福祉資金貸付事業	1億円
	後期高齢者医療事業	63億5,200万円
計		1,405億9,700万円

公営企業会計

市が企業的性格を持った事業（市場、病院）を経営するための予算を経理する会計を「公営企業会計」と言います。事業の収益を主な財源としています。

特別会計と同様にお金の出し入れをわかりやすくするために、一般会計や特別会計と財布を分けて管理します。

区 分		平成28年度予算額
公営企業会計	地方卸売市場事業	18億9,700万円
	病院事業	169億1,500万円
	計	188億1,200万円

一般会計歳入

市の収入にはどんなものがありますか？

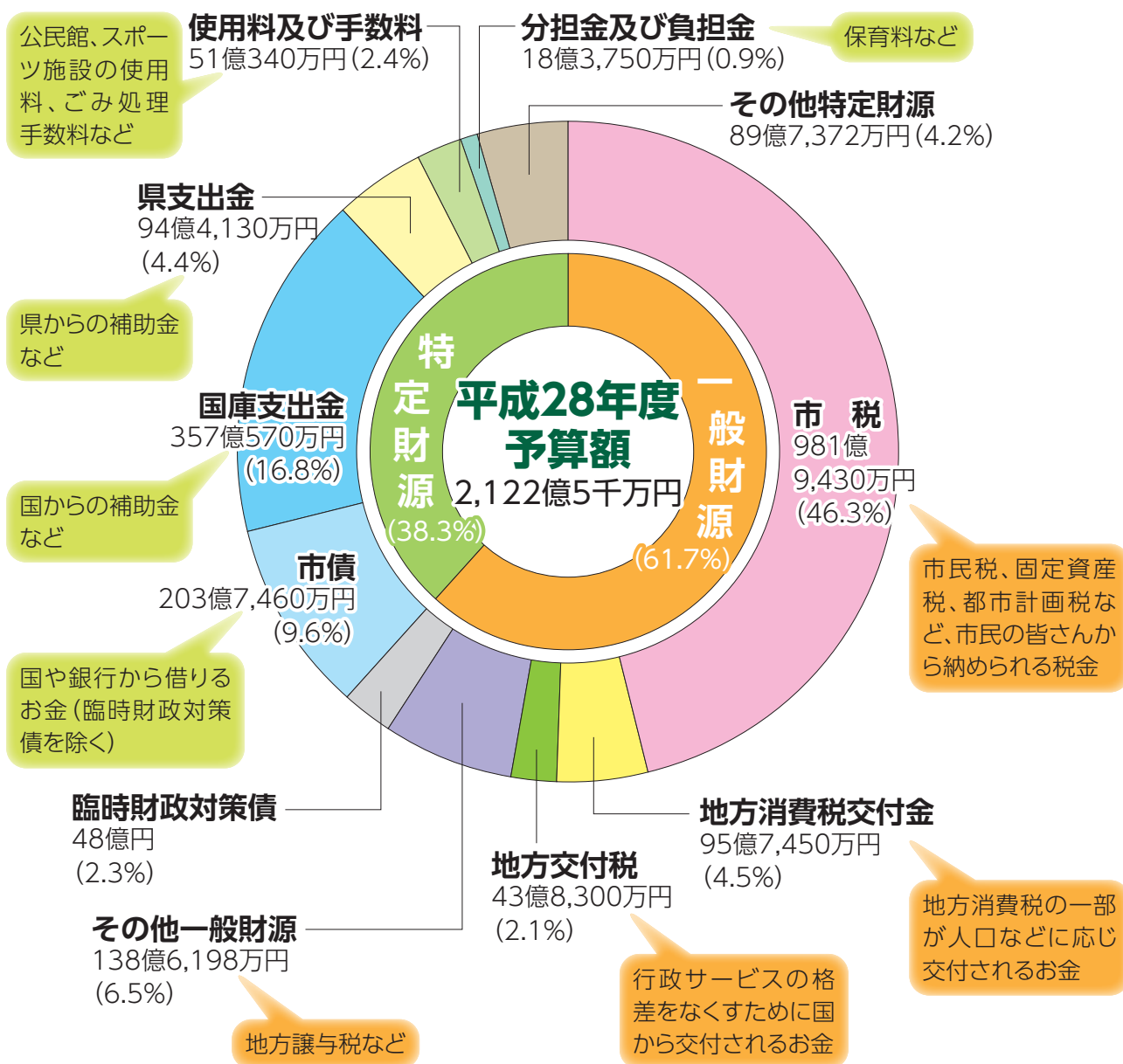
市の歳入（1年間の市の収入をいいます）のうち、最も大きいものは「市税」です。また、国や県からもらう「国庫支出金」や「県支出金」、借入金である「市債」などがあります。

これらの収入は使い道が自由な「一般財源」と使い道が決められている「特定財源」に分けられます。

一般財源は、市が受け取る時点で使い道があらかじめ決まっていないお金のことで、市税や地方交付税などです。

特定財源は、市が受け取る時点で使い道が決められているお金のことで、道路などの建設事業に使うために国からもらう補助金や、清掃工場の建て替えなどに使うため、国や銀行から借りる市債などです。

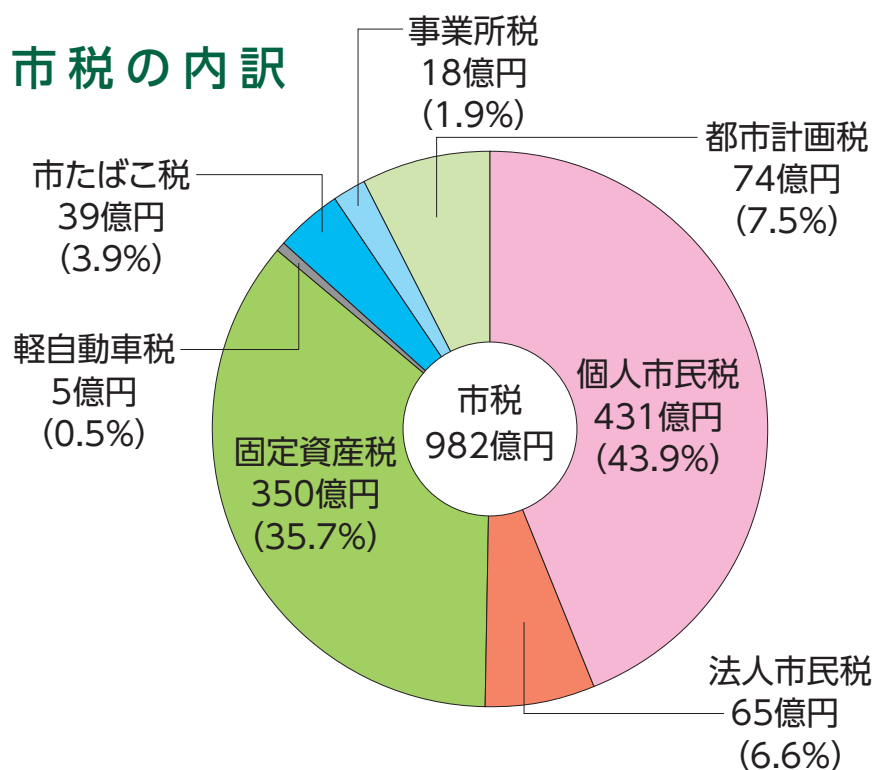
市民の皆さんの様々なニーズにお応えする仕事を行うためには、使い道を自由に決めることができる「一般財源」の確保が重要です。



市税の概要

市税は、市の歳入の約半分を占めています。その内訳は、「個人市民税」と「固定資産税」が多くを占めています。市税の中では、景気の影響を受けやすい「法人市民税」の割合が低いことから比較的変動の少ない歳入構造が本市の特徴です。

市税の内訳



個人市民税

市民の皆さんに納めていただく税金

法人市民税

市内に事業所等がある法人に納めていただく税金

固定資産税

土地・家屋・償却資産(事業用の機械など)にかかる税金

軽自動車税

軽自動車や原付バイクなどにかかる税金

市たばこ税

たばこの製造業者などが市内の小売販売者に売り渡した「たばこ」にかかる税金

事業所税

都市環境の整備等の費用に充てるため事業所等に納めていただく税金

都市計画税

下水道・公園などを整備する都市計画事業の費用に充てるための税金



市では、(公財)千葉県市町村振興協会から「サマージャンボ宝くじ」と「オータムジャンボ宝くじ」の収益金の配分を受けています。

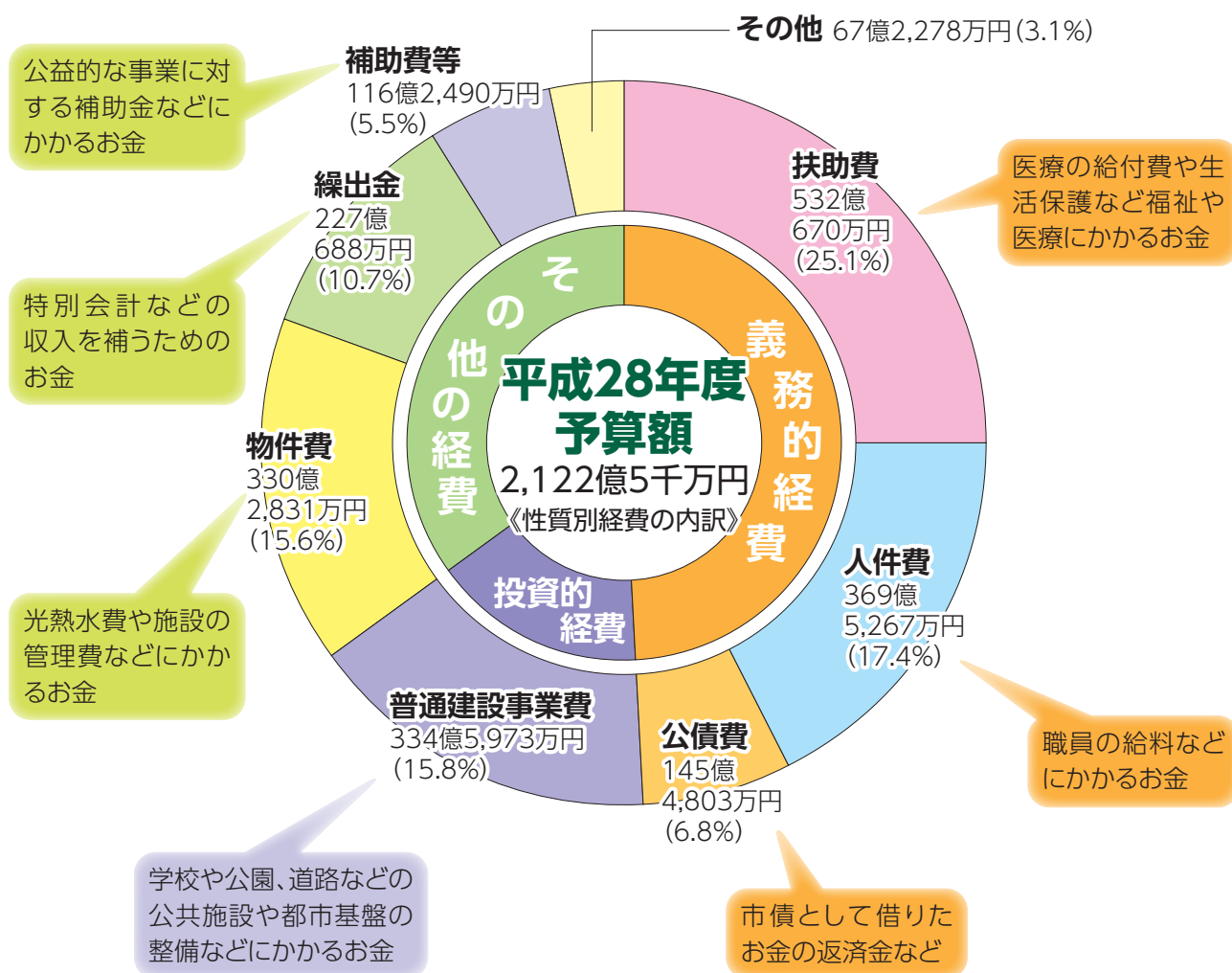
宝くじの収益金は、都道府県別の販売実績額などによって配分されるので、購入は、千葉県内の宝くじ売り場で!!

一般会計歳出

市の支出にはどんなものがありますか？

性質別経費による内訳

市の歳出（1年間の市の支出）を経費の性質に着目して分類しました。



義務的経費・投資的経費とは…

法令等により支払いが義務付けられていて、勝手に減らすことが難しい経費のことを「義務的経費」と言います。また、道路、橋、公園、学校などの建設や大規模な修繕などの経費のことを「投資的経費」と言います。



性質別経費の推移

予算額を10年前と比較すると歳出全体で659億円も増えています。義務的経費である扶助費は高齢化の進展や生活保護費などの社会保障関係経費の増加により、10年前に比べ約2倍（281億円増）になっています。繰出金も国民健康保険事業や介護保険事業などの社会保障関係経費の増加により増えています。

投資的経費である普通建設事業費は、集中的に取り組んだ小・中学校の耐震化や北部・南部清掃工場の建て替えなどにより近年増加しており、10年前に比べ約2倍（173億円増）になっています。

一般会計 歳出予算額の推移（性質別）



市民生活に身近な予算の内訳

皆さんが納める税金や国や県からの補助金などがどんな事業にどのくらい使われているかを市民生活に身近な予算を例に紹介します。

1 ごみの収集・処理にかかる予算

ごみの収集や焼却にかかる人件費や清掃工場の運営費などで年間71億円かかります。

世帯数273,901 世帯 (28.4 現在)

1世帯あたりにすると年額25,996 円です。

市税など 21,252円	使用料・手数料 4,440円	その他 304円
-----------------	-------------------	-------------



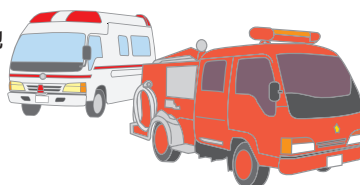
2 消防・救急にかかる予算

消防活動や救急活動にかかる人件費や消防車両の維持費などで年間59億円かかります。

人口624,473 人 (28.4 現在)

市民1人あたりにすると年額9,403 円です。

市税など 9,350円	国・県補助金 1円	その他 52円
----------------	--------------	------------



3 小学校の管理運営にかかる予算

小学校の管理運営にかかる人件費や施設の維持費などで年間21億円かかります(教職員の人件費は除く)。

児童数33,384 人 (28.5現在)

児童1人あたりにすると年額63,038 円です。

市税など 62,969円	国・県補助金 64円	その他 5円
-----------------	---------------	-----------



4 道路の維持管理にかかる予算

道路の維持管理にかかる人件費や維持補修費などで年間26億円かかります。

人口624,473 人 (28.4 現在)

市民1人あたりにすると年額4,198 円です。

市債 2,107円	市税など 1,729円	国・県補助金 328円	その他 34円
--------------	----------------	----------------	------------



5 介護サービスにかかる予算(介護保険事業特別会計)

介護サービスの実施等にかかる費用などで年間382億円かかります。

要介護・要介護支援認定者数23,418 人 (28.4 現在)

対象者1人あたりにすると年額1,631,437 円です。

介護保険料 825,643円	国・県交付金 559,407円	市税など 245,170円	その他 1,217円
-------------------	--------------------	------------------	---------------



船橋市の家計簿

市の予算額（一般会計）は、2,122億5,000万円と非常に大きいため、額を縮小して市の予算を家計簿に置き換えてみました。給与年収415万円（※）（給与月収34万6千円）であらわしてみました。

毎月の収入

給 与 346,000円

（うち基本給〈市税〉217,000円）

（うち諸手当〈地方譲与税、地方消費税交付金、国・県支出金など〉129,000円）

家 賃 収 入 58,000円

（分担金・負担金、使用料・手数料、財産収入など）

親からの仕送り 10,000円

（地方交付税）

家の増改築等のローン（借金）

（市債） 56,000円

（うち臨時財政対策債：11,000円）

合 計 470,000円

毎月の支出

食 費 82,000円

（人件費）

医 療 費 など 118,000円

（扶助費）

光熱水費や電話代などの生活費

（物件費、補助費等、維持補修費など）

114,000円

子供への仕送り 50,000円

（他会計への繰出金）

家の増改築費 74,000円

（普通建設事業）

ローンの返済（借金） 32,000円

（公債費）

合 計 470,000円

※年収415万円は、国税庁が調査した平成26年分民間給与実態統計調査の平均給与額。



平成28年度予算の主要事業

平成28年度の予算は、市の抱える諸課題を重点的かつ計画的に解決するため、「後期基本計画※」の「めざすまちの姿」で示す6つの取り組みを着実に実施するとともに、施策を進める上で重点としている「子どもたちの未来につながる施策の推進」、「船橋の持つ力をさらに伸ばすこと」、「一体感を育むまちづくりの推進」を念頭に置き、「人と人をつなぐこと」を基本的な柱として予算配分を行いました。

ここでは平成28年度予算に計上した主要事業を6つの「めざすまちの姿」と「新たな事業への取り組み」ごとにご紹介します。

※市政運営を総合的かつ計画的に進めていくために「基本計画」があります。特に平成24年度から平成32年度までの9年間で「後期基本計画」と呼んでいます。

非常時への備えのあるまち

●非常用備蓄品・防災用井戸の整備（2,942万円）

宿泊可能避難所や福祉避難所に備蓄されている食料品・飲料水等を拡充・更新します。また、災害時の生活用水を確保するため、防災用井戸を整備します。

●大雨による浸水対策（6億910万円）

都市化に伴う雨水流出の増大に対応するため、準用河川等の整備のほか、船橋特別支援学校高根台校舎の校庭に雨水貯留浸透施設を整備します。

●鉄道施設の耐震対策（1億972万円）

5つの鉄道事業者の耐震化事業に対し、費用の一部を助成することにより、大規模地震による被害の未然・拡大防止を図ります。

安心して暮らせるまち

●地域包括ケアシステムの構築

住み慣れた地域でいつまでも健やかに安心して暮らし続けられるよう、住まい・予防・生活支援・介護・医療が一体的に提供される体制づくりを進めます。

①高齢者生活実態調査の実施（1,644万円）

「高齢者生活実態調査」の対象者を1万人から2万人へ拡大し、地域ごとの状況を分析します。生活道路の安全を確保する「ゾーン30」



②認知症初期集中支援チームの設置（285万円）

「認知症初期集中支援チーム」をモデル事業として設置することにより、認知症の早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築します。

●人間ドック受診費用の助成（9,256万円）

健康診査の受診機会拡大と受診者の利便性向上のため、船橋市国民健康保険の被保険者で40歳以上の方及び後期高齢者医療制度の被保険者の方が医療機関等で人間ドックを受診した場合に費用の一部を助成します。

●歩行者等の安全対策（4億6,043万円）

歩行者が安全に通行できる空間や生活道路の安全を確保するため、歩道や「ゾーン30※」（4か所）を整備します。また、自転車を安全で快適に利用できるよう、自転車走行箇所をカラー舗装します。

※ゾーン30：生活道路における歩行者等の安全な通行を確保することを目的として、区域（ゾーン）を定めて時速30キロの速度規制を実施するとともに、その他の安全対策を必要に応じて組み合わせる生活道路対策のこと。

未来へつなぐ恵み豊かな環境のまち

●都市公園の整備（4億4,268万円）

市民の憩いの場であり、防災面からも重要な公園の拡充を図るため、5つの公園を整備します。

●ふなばし三番瀬海浜公園に環境学習館を整備（23億212万円）

四季を通じて三番瀬の仕組みや生物、歴史、営みをテーマにした展示物や体験コーナーなど、環境について学ぶことができる施設の整備を進め、平成29年7月のオープンを目指します。



平成29年7月のオープンを目指す「ふなばし三番瀬環境学習館」

●北部清掃工場・南部清掃工場の建て替え（83億7,578万円）

北部清掃工場の建て替え工事を進め、余熱利用施設と併せて平成29年4月の稼働を目指します。また、南部清掃工場の建て替え工事に着手し、平成32年4月の稼働を目指します。

笑顔があふれる子育てのまち

●認可保育所等の整備促進（12億1,924万円）

認可保育所や、満3歳未満の子供を対象とする小規模保育事業所の整備を促進します。

●保育士確保策の充実（1億9,188万円）

将来、市内の保育所等で勤務しようとする指定保育士養成施設の学生を対象に修学資金の貸し付けを行います。また、市内の私立保育所等が保育士のために宿舍（アパート等）を借り上げた場合に、家賃を補助します。

●小・中学校校舎の改修（22億8,163万円）

老朽化した市立小・中学校の校舎の外壁・屋上防水、トイレを改修します。また、計画的にトイレや体育館天井等を改修するための設計を行います。



笑顔いっぱいですくすくと成長を

●放課後子供教室を 全市立小学校で実施 （4億4,686万円）

放課後や夏休み等の子供の安心・安全な活動場所を確保するため、新たに市立小学校23校で放課後子供教室を開設し、全市立小学校54校で実施します。

人が集まる元気なまち

●JR船橋駅南口駅前の整備（7億7,984万円）

中心市街地の円滑な交通を確保するため、整備が待たれていた京成本線高架からJR船橋駅南口駅前広場までの都市計画道路（フェイスビル西側）の整備に着手します。また、市の情報発信を積極的に行い回遊の拠点にするため、本町4丁目市有地に民間活力によるインフォメーションセンター機能を整備します。



平成29年7月のオープンを目指す「運動公園プール」

●商工業戦略プランの推進（6,246万円）

本市の商工業について平成28年度から10年間の戦略を定めた同プランの実現に向け、企業の販路開拓を図る「共同ビジネスマッチング」、商店街のにぎわい創出のための「商店街まちづくり・賑わい推進モデル事業」等の費用を助成するほか、実践的な経営知識を学ぶ「創業実践塾」等を開催します。

●運動公園プールの整備（17億8,359万円）

レクリエーション機能を持たせた魅力ある施設の整備を進め、平成29年7月のオープンを目指します。また、オープンに向け、夏見台6丁目に約300台の駐車場を整備します。

●JR船橋駅南口周辺部と臨海部エリアの回遊性創出（2,100万円）

中心市街地と臨海部エリアの回遊性を創出するため、新たな移動手段の可能性や親水空間の活用について検討します。また、市道14-073号線（通称「山口横丁」）の整備に向けた検討を進めます。

市民に愛され、育まれるまち

●姉妹都市記念事業（1,469万円）

平成28年度はハイワード市との姉妹都市提携30周年にあたるため、ハイワード市から代表団等を招へいし、双方の都市の市民交流を図ります。また、平成29年は日本・デンマーク外交関係樹立150周年にあたるため、記念事業に文化団を派遣します。



平成28年10月のオープンを目指す「西図書館」

●西図書館リニューアル・図書館サービスの向上（5億4,177万円）

平成28年10月西図書館のリニューアルオープンに向け準備を進めます。また、図書館利用者の利便性向上のため、ICタグを導入し、図書の自動貸し出し・自動返却などを行えるようにします。

●高瀬下水処理場上部に多目的運動広場の整備（4億8,549万円）

高瀬下水処理場の上部を活用し、サッカー等多目的に利用できる運動広場の整備を進め、平成28年10月のオープンを目指します。

新たな事業への取り組み

●海老川上流地区のまちづくり検討（1,800万円）

海老川上流地区において、自然との調和を図りながら医療・福祉機能を中核とする新たなまちづくりに着手するため、事業計画を検討します。

●医療センター建て替えの検討（953万円）

昭和58年に開院した船橋市立医療センターの建て替えに向けて検討し、基本構想を策定します。

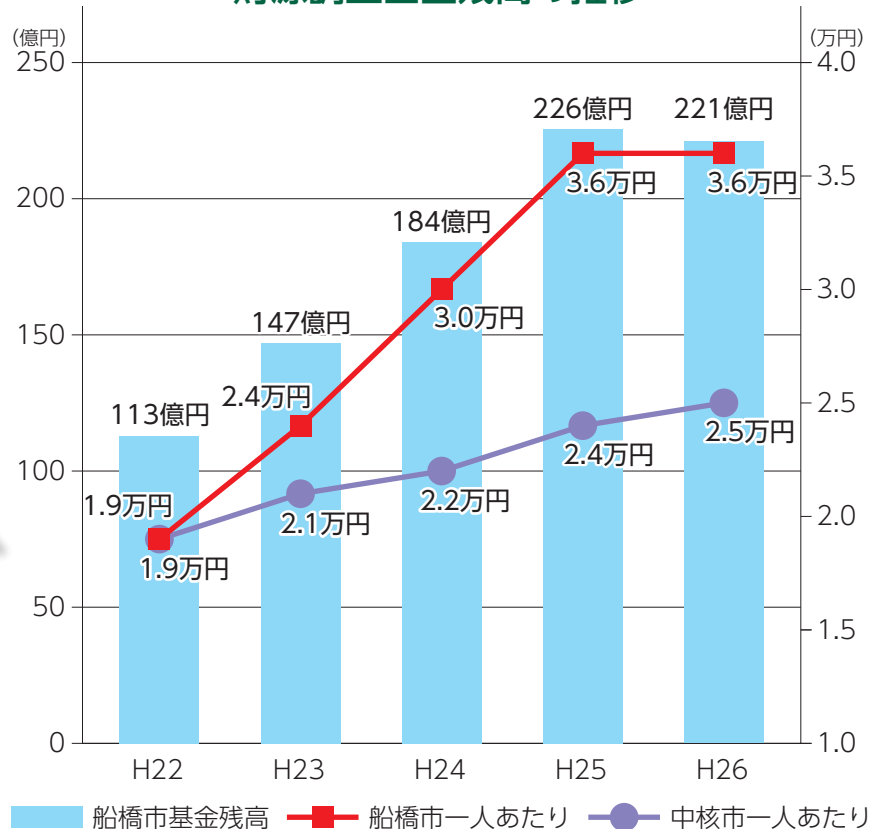
船橋市の財政状況

市の貯金、借金などの状況や、市の財政が健全かを計る指標を他市との比較を交え説明します。

貯金はあるの？

市には、急激な収入の落ち込みや、災害復旧などの想定外の支出、また今後見込まれる公共施設の老朽化や少子高齢化社会への対応等に備えるための貯金があります。これを「財源調整基金」と言い、毎年、決算の時に余ったお金（剰余金）等から積み立てています。

財源調整基金残高の推移



財政状況の比較は中核市同士で

同じ自治体と言っても、村や町から人口が100万人を超える市まで様々です。自治体により必要とされる行政サービスが異なります。

また、政令指定都市や中核市は、都道府県の行う仕事の一部を行っているため、普通の市と比べると行っている仕事や必要となる財源が大きく異なります。そのため、財政状況を他市と比較するときには、同じ中核市同士で比較します。

その他の貯金はどのようなものがあるの？

財源調整基金の他にも、特定の目的のために使用する貯金（特定目的基金）や一定額の貯金そのものを原資として貸付等の事業を行うための貯金（定額運用基金）があります。

	基金の名称	目的
特定目的	減債基金（※19ページ参照）	市債の償還に必要な財源を確保するため
	職員退職手当基金	退職手当の財源に充てるため
	公園緑地整備基金	公園の整備、緑の保全、緑化の推進を図るため
	福祉基金	地域福祉の増進に資するため
	一般廃棄物処理施設等整備基金	施設の整備に必要な資金を積み立てるため
	文化振興基金	文化の振興に資するため
定額運用	文化芸術ホール事業基金	自主事業を円滑かつ効率的に行うため
	高額療養費貸付基金	高額療養費の貸し付けのため

詳しく見てみると……

一般廃棄物処理施設等整備基金

施設の整備に必要な資金を積み立てるために設置しています。

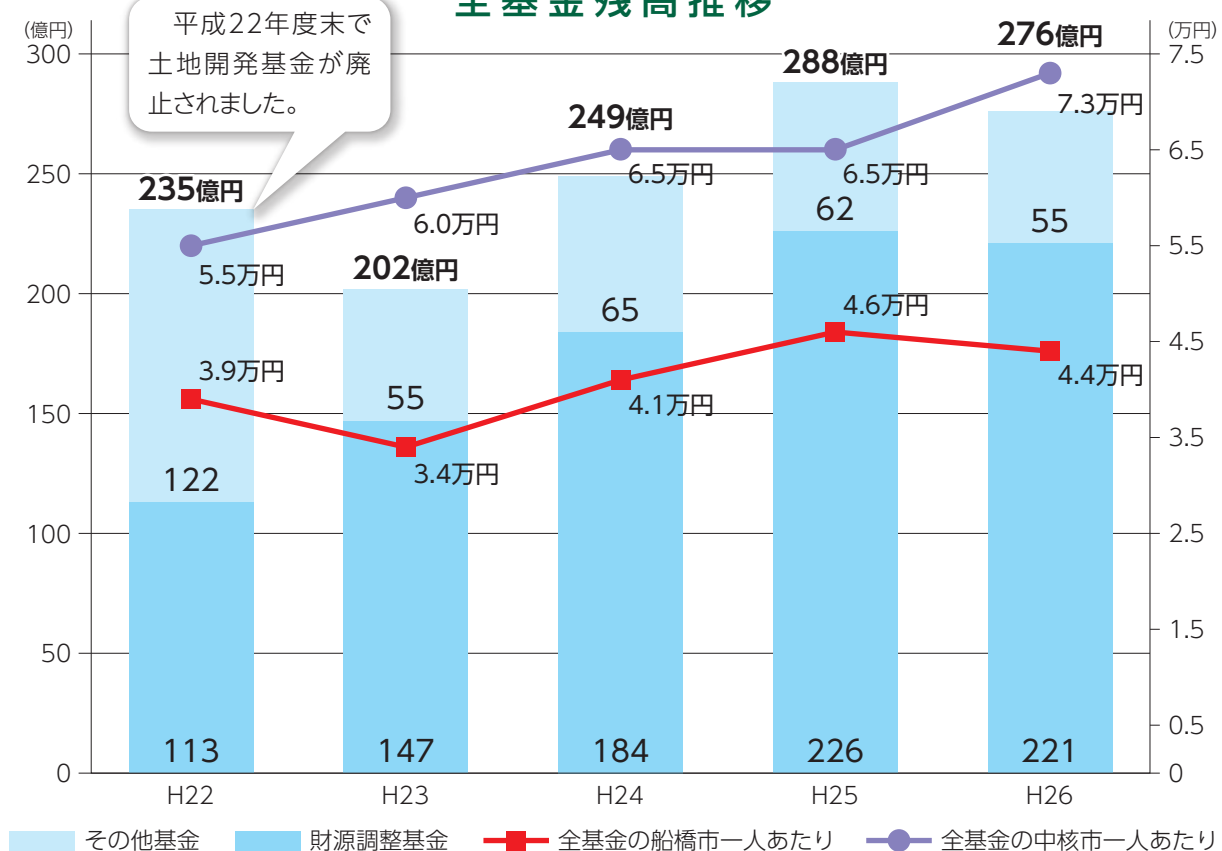
平成28年度は北部清掃工場の建設費が多額になることから、基金を約15億円取り崩して建設費の一部に充てます。

文化振興基金

平成27年度末に寄附を頂いた1.5億円を積み立てて新しい基金を設置しました。

今後、この基金を活用し、その運用収入を文化振興に係る事業の一部に充てます。

全基金残高推移



中核市で比較すると、本市の財源調整基金の1人あたり基金残高は多くなっていますが（※13ページ参照）、全ての貯金を合わせてみると、1人あたり残高は多くありません。

消費税の引き上げと増え続ける社会保障関係経費（扶助費）

社会保障関係経費とは、国においては年金医療介護給付費、少子化対策費、生活扶助等社会福祉費、保健衛生対策費、雇用労災対策費となっています。

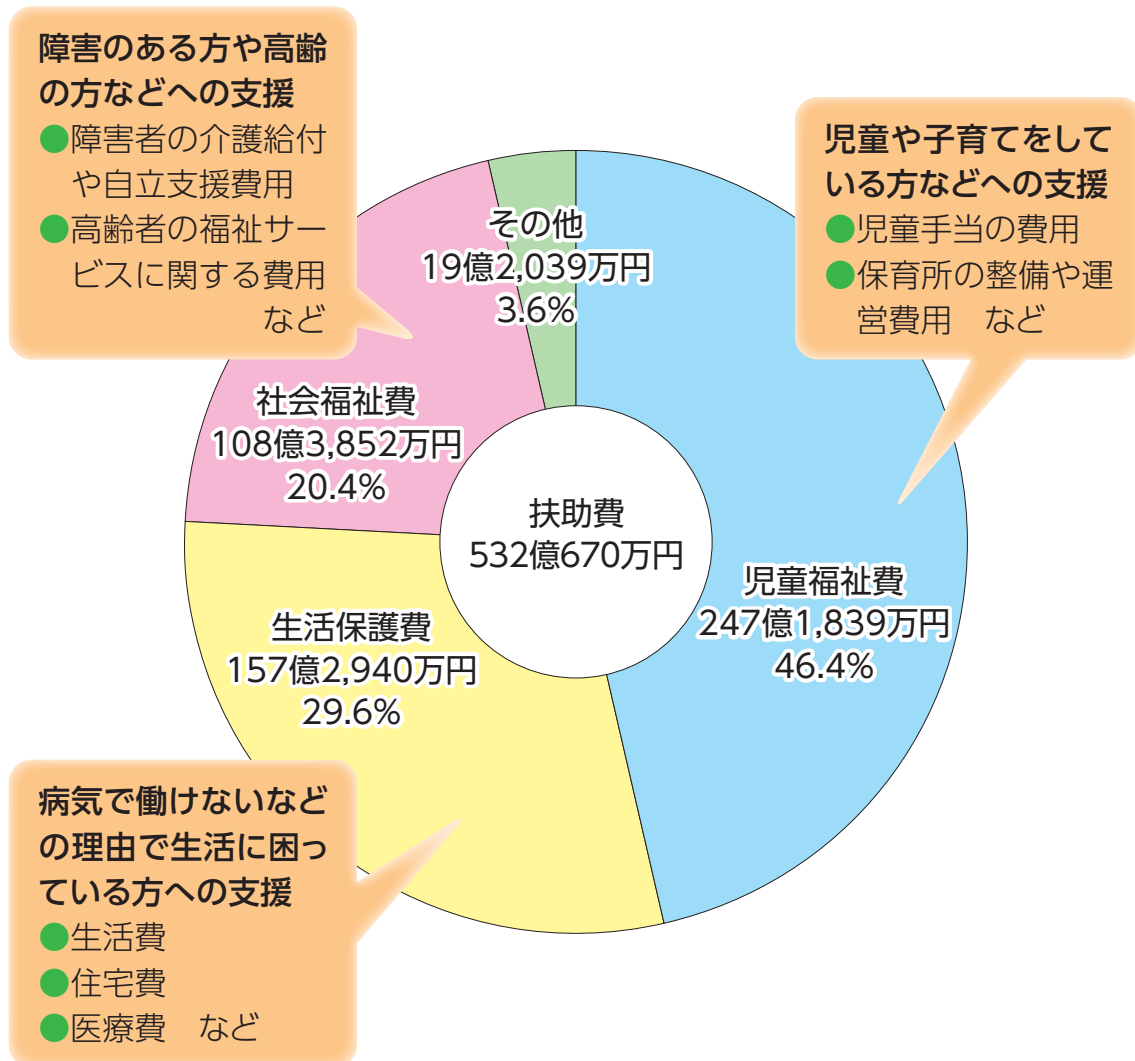
現在、急速な高齢化と少子化が同時にすすんでおり、今後社会保障の給付が大幅に増えることが見込まれているため、国において「社会保障と税の一体改革」が行われています。消費税の引き上げによる税収分全てが社会保障の充実と安定に向けられています。

従前の社会保障3経費と呼ばれる基礎年金、老人医療、介護に係る費用から、社会保障4経費（年金、医療、介護、子育て）に消費税の充てる対象を広げています。

扶助費の内訳

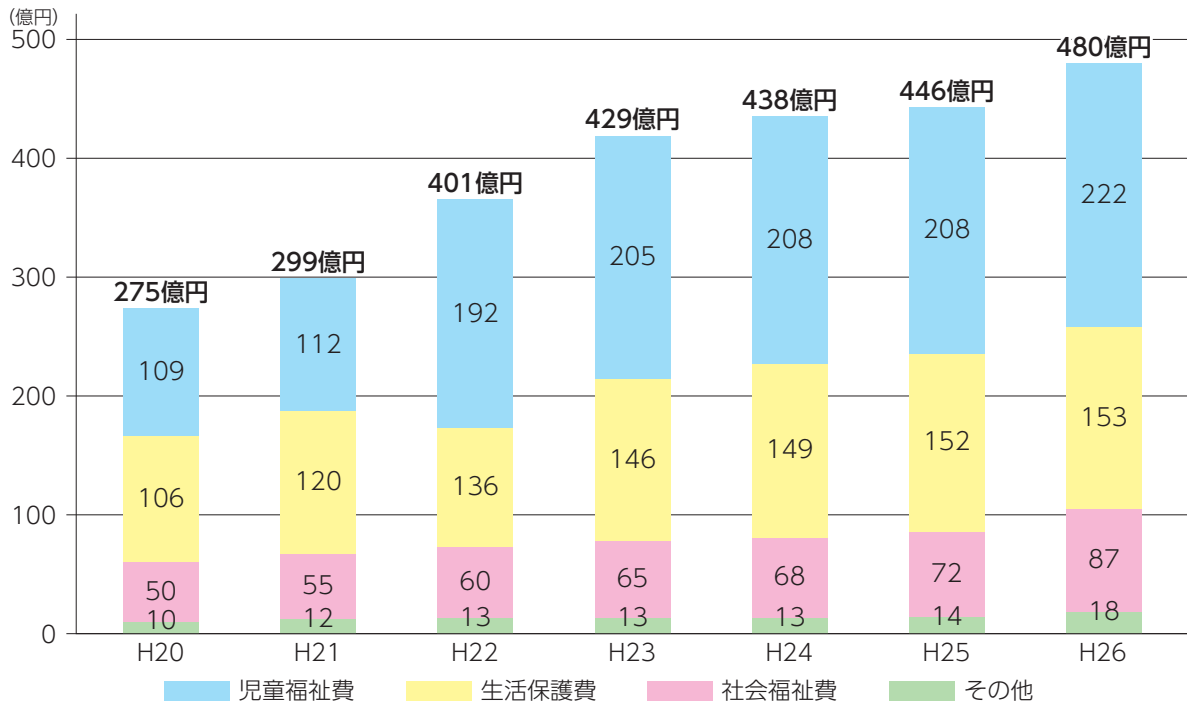
扶助費とは、予算において、社会保障制度の一環として、生活困窮者、児童、高齢者、心身障害者等を援助するために要する経費となります。また、国の施策に基づき市が独自に上乗せして行うサービスも扶助費に含まれます。

扶助費の内訳（平成28年度予算額）



社会保障関係経費（扶助費）の推移

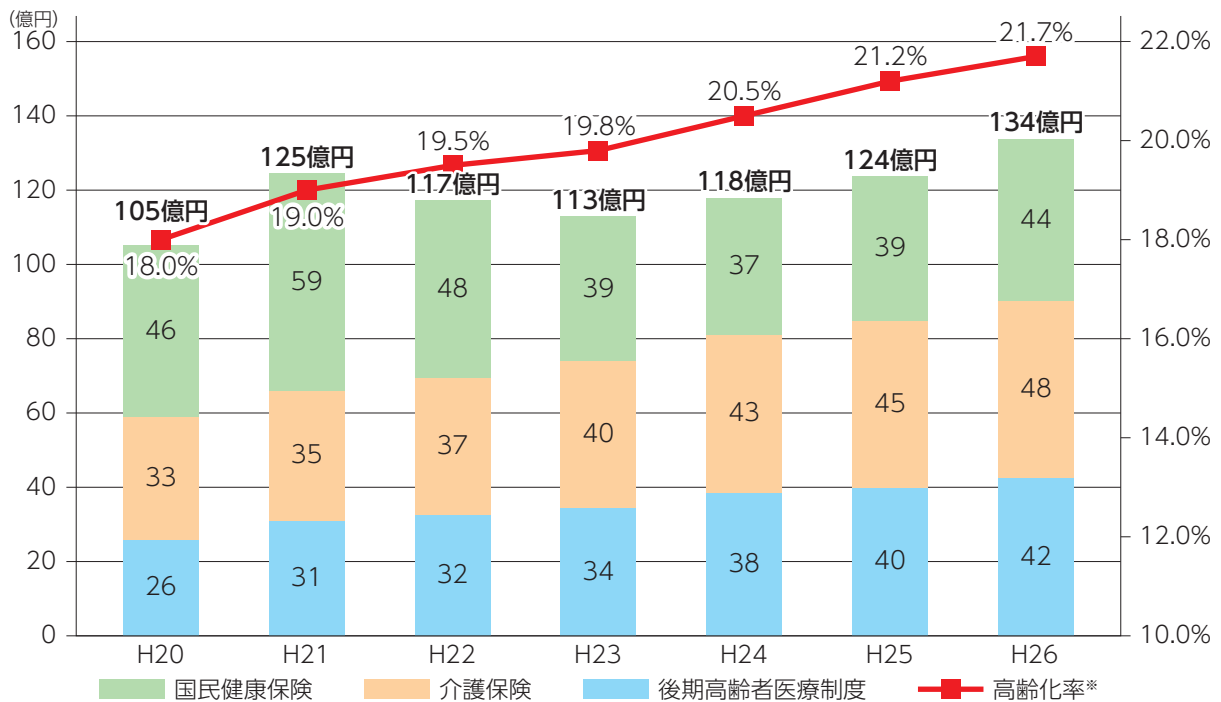
扶助費の内訳の推移（普通会計決算）



市の予算では扶助費のほか、繰出金等に医療、介護にかかる予算が含まれています。

国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療制度については独立採算の原則から経費を明確にするため、一般会計とは別に特別会計をもって経理していますが、それぞれの会計に対し一般会計から負担すべきお金を出しているのが繰出金です。

医療・介護にかかる特別会計への繰出金等の状況（普通会計決算）



※高齢化率：人口に占める65歳以上人口の割合

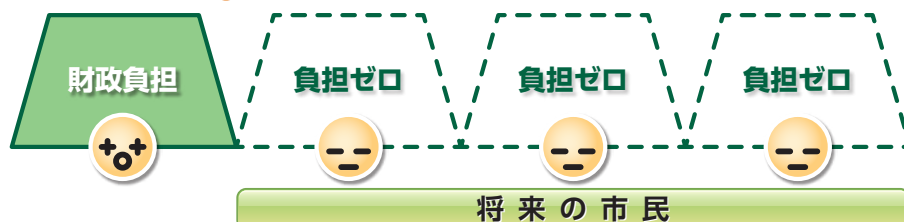
なんでお金を借りるの？

市債は借金なので、少ない方が良く考えるのが当たり前ですが、学校や公園などの公共施設の整備には多額の費用が必要です。これらの公共施設の整備に必要な費用を1年間の予算で賄ってしまったら、その1年は他の仕事が出来なくなってしまいます。

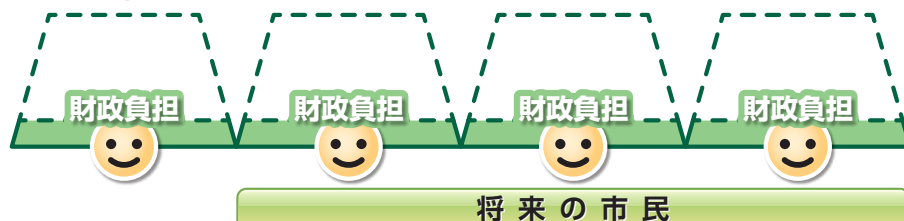
また、学校や公園などは長い期間たくさんの市民が使いますが、1年間の予算で整備してしまうと、将来の市民は整備費用の負担なしに施設を利用できることになります。

そこで、「市債」という借金をして、1年間の整備費用の負担を小さくし、何年にもわたり返済することで、施設を利用するすべての世代の市民に整備費用を公平に負担してもらうことができます。

市債(借金)を活用しないと ▶ 公共施設を整備する年度の市民が全額負担し、将来の市民は負担なし

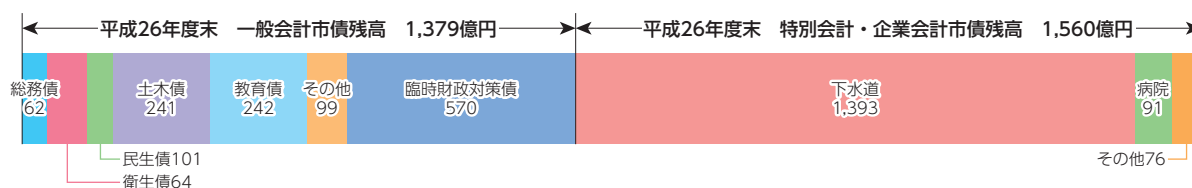


市債(借金)をして ▶ 将来の市民も整備費用を公平に負担します



今までいくら借りて、何に使ってきたの？

市債の残高は、平成26年度末に、一般会計で1,379億円、全会計で2,939億円となっています。その使い道は、学校や道路、公園、下水道、医療センターといった施設が中心です。近年は、小・中学校等の公共施設の耐震化などに多く使われています。また、臨時財政対策債の残高が大きくなっています。



- **総務債**……………出張所、防災施設の整備、鉄道事業者への出資など
- **民生債**……………障害者・老人・児童福祉施設、保育所の整備など
- **衛生債**……………清掃工場、保健福祉センターの整備など
- **土木債**……………道路・公園・橋りょう・河川の整備など
- **教育債**……………小・中学校、高等学校、公民館の整備など
- **臨時財政対策債**…国が地方に交付する地方交付税の一部について、市が代わりに借金するもの。返済にかかる費用は将来の地方交付税に加算されて交付されます。

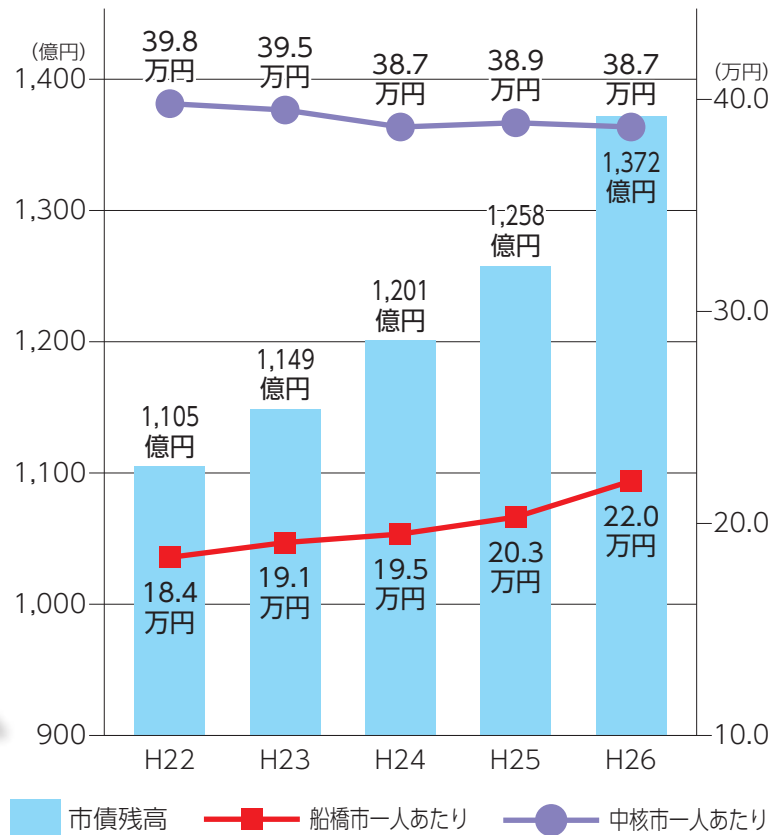
近年、市債の残高が増えているけれど？

平成26年度末の市債残高は1,372億円（※普通会計）で、人口1人あたりの金額は220,178円となります。これは全国の中核市43市（平均387,138円）の中では4番目に少ない額となります。

しかしながら、近年、市債の残高が増えています。これは、前ページでも述べたとおり、東日本大震災以降、小・中学校をはじめ公共施設の耐震化のための建て替えや補強工事に力を入れてきたため、その財源として市債の発行が大きく増えたことによるものです。



市債残高の推移



普通会計ってなに？

全国の自治体の予算の作り方をみると、介護サービス事業や区画整理事業などを一般会計で行ったり、特別会計や企業会計で行ったりとバラバラな部分があります。

そこで、自治体間で比較できるようにした統一的な基準となる会計区分を「普通会計」と言います。

今年も船橋みらい債を発行する予定です

船橋みらい債は市民の皆さんを対象に発行する市の債券です。市のさまざまな事業に関心を持っていただくとともに、協働による魅力的なまちづくりを進めることを目的に発行しています。皆さんの大切な資金を船橋のまちづくりに活かしませんか。

今年度の船橋みらい債の申し込み方法など詳しくは、広報ふなばし（9月15日号）でお知らせする予定です。

平成28年度の発行予定

【発行額 5億円】 【購入限度額 300万円(10万円単位)】 【お申込み期間 10月1日～15日】

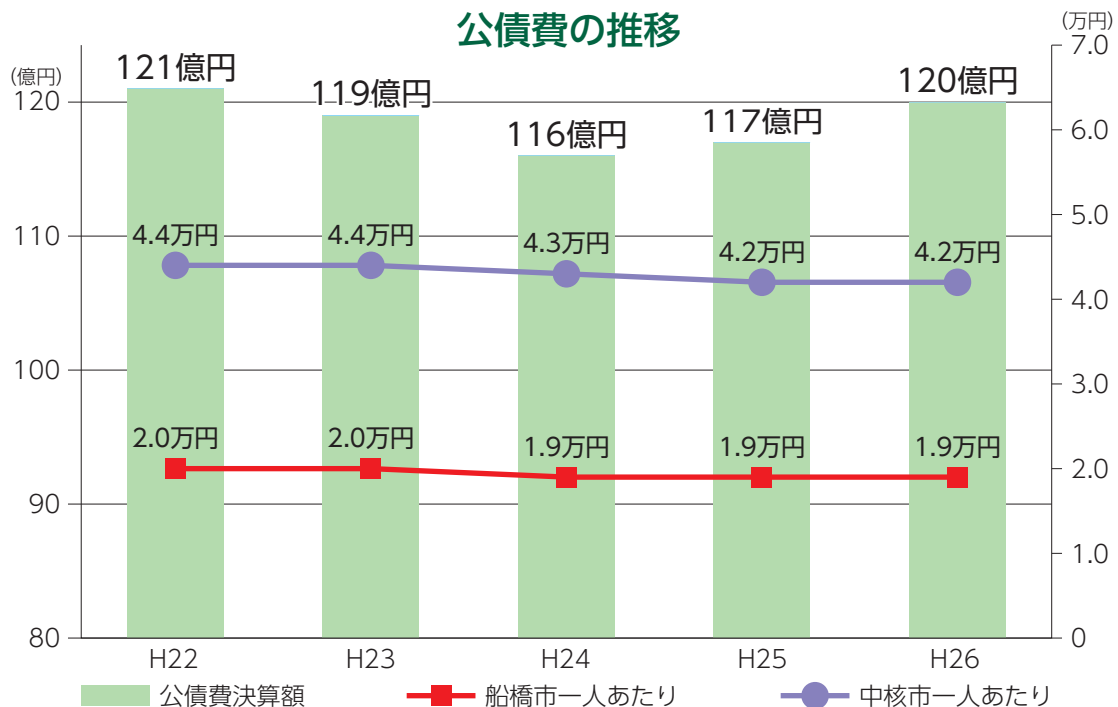
返済は大丈夫なの？

市債を返すお金を「公債費」といい、市税などの一般財源で毎年返済しています。

平成26年度の公債費の決算額は120億円（普通会計）で、人口1人あたりの金額は19,199円となります。これは全国の中核市43市（平均41,581円）の中では2番目に少ない額となっています。

しかしながら、前ページで説明したとおり、近年、市債残高が増え続けており、元金返済の据置期間を過ぎる数年後から公債費が増えます。また、今後も、清掃工場の建て替えなど公共施設の老朽化や長寿命化への対応を行う必要があり、市債を発行しなければなりません。現在の公債費は120億円程度で推移していますが、数年後には150億円に達することが予想されます。今後は、将来の返済の負担が大きくなりすぎないように、建設事業の実施を必要性に応じて厳選するなど、市債の発行をできる限り少なくするよう努めていかなければなりません。

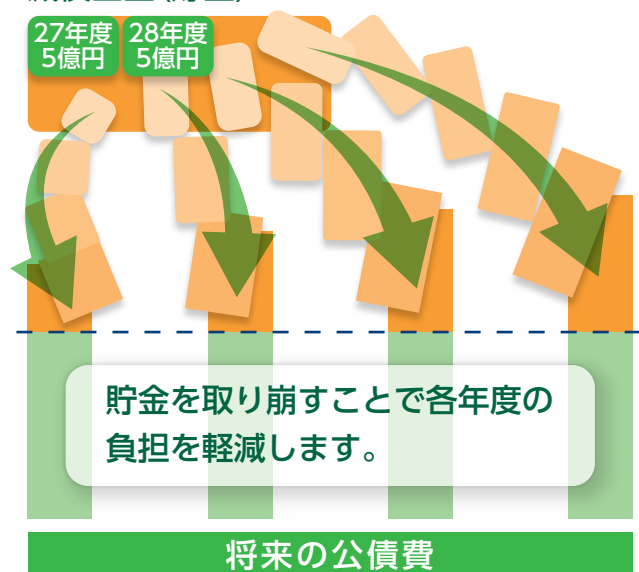
公債費の推移



●減債基金への積み立て

平成27年度予算において将来、公債費が増加したときに備え、減債基金に5億円を積み立て（貯金）しました。平成28年度予算においても5億円を積み立てます。減債基金とは、公債費の償還にだけ使える貯金で、平成29年度以降も積み立てを行っていきます。そして、公債費が増加したときに取り崩す（引き出す）ことで公債費が大きな負担とならないようにします。

減債基金（貯金）



船橋の財政状況はいいの？

夕張市の財政破綻をきっかけに、**健全化判断比率**

(平成26年度決算 単位：%)

自治体の財政破綻を未然に防ぐことを目的として、平成19年に「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」が制定されました。

自治体財政の早期健全化や再生の必要性を判断する「健全化判断比率」として、4つの財政指標があります。

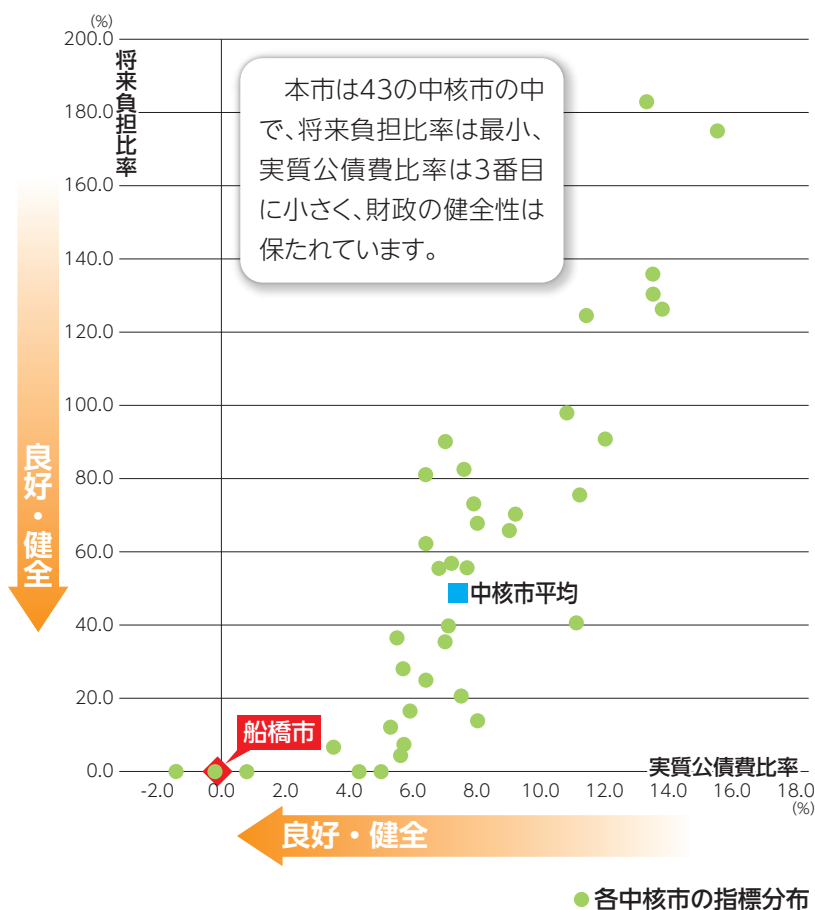
指 標	船橋市	中核市平均	早期健全化基準
実質公債費比率	-0.1	7.4	25.0
将来負担比率	—	48.6	350.0
実質赤字比率	—	—	11.25
連結実質赤字比率	—	—	16.25

これらの指標のうち1つでも国が定めた基準（早期健全化基準）以上の数値になった場合には、財政健全化計画を策定しなければなりません。本市は現在のところ、いずれの指標もこの基準を下回っています。他の中核市と比較しても財政の健全性が保たれています。このうち特に大切な2つの指標を説明します。

実質公債費比率

収入に対する公債費の占める割合で、数字が小さいほどその年度の借金返済額が少ないということです。平成26年度決算では-0.1%となっており、全国の中核市43市中でも3番目の小ささです。

実質公債費比率と将来負担比率における他の中核市との比較 (平成26年度決算)



将来負担比率

市の実質的な借金が歳入の何年分かを示したもので、数字が小さいほど将来負担が少ないということです。平成26年度決算では、将来負担すべき負債を貯金などで十分返済可能なため、「—」で表示しています。

健全な財政と行財政改革

ここ数年は、景気の回復による市税収入の増加等により、積極的な予算編成ができていますが、不足する財源を補う十分な財源調整基金があってはじめて可能となります。平成26年度決算では、財源調整基金の残高は約10億円の減となりました。

また、山積する諸課題の解消や年々高まる行政需要に比例して予算規模も大きくなり、老朽化した公共施設の耐震化・長寿命化に加え建て替えなど大規模な事業も予定されており、その財源として多額の市債を発行しています。

これらのことを踏まえ、健全な財政を維持し、将来にわたり安定した市民サービスを提供していくため、より綿密な将来財政推計を行い、事業と財源について総点検を行うとともに、積極的に行財政改革に取り組みます。

予定されている主な大規模事業

- 北部清掃工場の建て替え(平成25年度～28年度)
- 南部清掃工場の建て替え(平成28年度～31年度)
- 三番瀬海浜公園の整備(平成27年度～28年度)
- 運動公園プールの整備(平成27年度～29年度)

検討中の主な大規模事業

- 海老川上流地区のまちづくり
- 医療センターの建て替え



今後の具体的な取り組み

● 公共施設等総合管理計画の作成

市が保有する公共施設・インフラについて長期的な視点を持って更新・統廃合・長寿命化を行うなど、総合的に管理するために公共施設等総合管理計画を立案し、公共施設の維持にかかるコストの削減を図ります。

● 統一的な基準による地方公会計整備

お金の流れだけでなく、資産・負債情報を総体的・一覽的に把握し、事業別・施設別の分析等を活用し、予算編成等の行財政運営の参考とします。

● 行財政改革推進本部の設置

山積する諸問題の解消と安定した行財政運営の両立を図るため、将来財政推計、行革対象項目の抽出等を行い、行財政改革に取り組みます。

船橋ふるさと応援寄附金(ふるさと納税)

本市出身・在住の方をはじめ、全国の「船橋を応援したい・盛り上げたい!」という皆さんから頂いた寄附金を市の魅力を高める様々な事業に役立てます。皆さんからの応援を心からお待ちしています。

一定金額以上のご寄附をいただいた方に特典を贈呈します

市内・市外在住を問わず、1回の寄附金額が1万円につき船橋をより知っていただけるようにゆかりのある産品を1品お贈りします(5万円以上は一律5品贈呈)。



船橋のなし

寄附した金額のうち2,000円を超える部分について、所得税と個人住民税から一定限度額までが控除の対象となります。

お寄せいただいた寄附金は、船橋市のめざすまちの姿の6分野の各事業に活用させていただきます。ご寄附をいただく際に、6つの分野、または「市長におまかせ」から、いずれか一つをご指定ください。平成26年度は下記の事業に活用しました。

1 非常時への備えのあるまちづくり

都市防災機能・自主防災の向上ほか

「災害監視カメラの設置費用」に活用。 1,718,274円

2 安心して暮らせるまちづくり

保健・医療体制の充実、自主防犯活動の推進ほか

「レス・トレーナー(障害者歯科治療や小児歯科で使用される器具)要介護者用の歯科治療ユニットの購入」に活用。 2,418,274円

3 未来へつなぐ恵み豊かな環境のまちづくり

省エネルギー化の推進、再生エネルギー導入の推進ほか

「町会・自治会が防犯灯を設置する費用の補助金」に活用。 1,709,000円

4 笑顔があふれる子育てのまちづくり

子育て支援の推進、教育環境の充実ほか

「小・中学校図書館の書架購入」に活用。 2,872,000円

5 人が集まる元気なまちづくり

駅周辺の整備、産品・産物ブランド化の推進ほか

「当市の産品ブランドを推進するための費用」に活用。 1,040,000円

6 市民に愛され、育まれるまちづくり

市民参加のまちづくり、「ふなばし」情報の発信ほか

「当市を訪れる外国人の方向けに、船橋を紹介するための多言語(4か国語)リーフレットを作成する費用」に活用。 430,000円

7 市長におまかせ

寄附金の使い道は市長におまかせいただきます

「小・中学校の楽器購入」に活用。 4,468,001円

詳しくは、船橋ふるさと応援寄附金ホームページをご覧ください

お申込み・お問合せ先／政策企画課ふるさと納税担当／TEL047-436-2461

<http://funabashi-furusato.jp>

船橋市 ふるさと納税

検索



船橋市の予算や財政に関する詳しい情報は市のホームページでご覧いただけます。

アドレス <http://www.city.funabashi.lg.jp/>

[トップページ](#) ▶ [市政・市の紹介](#) ▶ [財政\(予算・決算\)・市債発行](#) から
アクセスしてください。

平成28年6月

発行／船橋市

編集／企画財政部財政課 047-436-2152